

平成27年1月2日

# 南の風 101

南部ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

新年明けましておめでとうございます。

南の風も、皆様からいろいろご示唆いただきながらなんとか続いております。本年もどうぞよろしく  
お願い致します。

100号の続きを書きます。東京成徳のオフェンスで参考になることは、プレーの連続性と中と外の  
合わせです。6番と7番以外は突出した選手はいないのですが、フロアの5人が有機的に動いてオフェ  
ンスに絡むところがすごいです。

「中を突いて外へ合わせる」というオフェンスは、バスケットボールの基本です。東京成徳の場合、  
田中選手という安定したセンターがいるので、合わせやすいという利点があります。特に素晴らしいと  
感じたプレーは、田中選手がミドルポストでボールを持った時に、ディフェンスがダブルチームした瞬  
間に逆サイドのウイングにフックパスをしたプレーです。当然ボールを受けてから何をするか決めたの  
では遅いし、ディフェンスに視野を潰されます。もらう前から味方の位置を確認しておかなければでき  
ないプレーです。聖カタリナ戦は、相手のシュート力に翻弄されてしまい、いつものオフェンスが機能  
しませんでした。しかし勝敗はともかく、東京成徳の戦い方は理にかなっていると感じました。

東京成徳のマンツーマンディフェンスも参考になることが数多くありました。特に感じたことは、ディ  
スタンスとハンドワークです。相手の運びに対してハーフマンツーマンでつくのですが、ディレクション  
しながら徐々にディスタンスを詰めるのが上手です。相手がフロントに入った場合は、1線は常にワン  
アームの距離で守っていました。ハンドワークでは、ボールに対してポイントできるように、いつも手  
が動き続けていました。またボールが止まった場合の、スティックしての視野潰しや2線のパスチェッ  
ク、3線のヘルプと言った**基本プレーをやり続ける凄さ**を感じました。そしてボックスアウトの徹  
底も見事でした。ボックスアウトに関してもゲームを通して、**やらない選手がいません**でした。

東京成徳のゲームを観るといつも、「**ファンダメンタルの大切さ**」を感じます。そして我々ミニバ  
スの指導者にとっては、この上ない教科書でもある気がします。

さて、3枚目の指導者用のDVDⅢを作成することになりました。今回もサザンクロス連盟の皆さん  
の力を借りて作ります。今回のCONTENTSの内容を書きます。大きく分けて4項目になります。

- 1 ボールミート&シュートファンダメンタル
- 2 オフェンス1対1ファンダメンタル
- 3 オフェンス2対2コンビネーション
- 4 オフェンススペーシングファンダメンタル

以上です。詳しい内容については、次号で紹介します。皆さんからの要望が強かったものから選びま  
した。一部DVDⅡと重複するものがありますが、具体的な指導が入っていますので参考になるのでは  
と思います。そして、スクリーンプレーも入れました。南の風でも触れましたように、正しいスクリー  
ンの掛け方を選手が体得できれば幸いです。